

1. 競技規則

本大会は2025年度日本陸上競技連盟競技規則および本競技会申し合わせ事項により実施する。

なお、TR4.4（参加の拒否）、TR8.4/8.5（現場での抗議）は適用しない。

2. 競技者案内所（T I C）

競技者案内所（T I C）を競技場正面入口 1 階ロビーに置き、次の業務を行う。

- (1) 各種問い合わせ、審判長への抗議・上訴の受付、落とし物の取り扱いなど。
- (2) プログラム販売（1冊500円）
- (3) 競技に持ち込んで使用する円盤の受付と返却。

3. 受付

- (1) 競技者受付は7時00分からT I Cにて行う。
- (2) 受付の際には、プログラムと一般競技者にはアスリートビブスを配布する。一般競技者はアスリートビブス代として一人200円を納入する。
- (3) プログラムの記載ミス（氏名、フリガナ、学年、所属等）については、プログラム訂正用紙（プログラム巻末に掲載）を提出する。

4. 招集

- (1) 本競技会では、招集は第4ゲート付近に設けた選手招集所で行う。
- (2) 各種目の招集開始および完了時刻は、プログラム競技日程記載のとおりとする。
- (3) 招集では係員がアスリートビブス、スパイクピン・商標・競技注意事項6(4)②に該当する持ち物等のチェックを行う。また、5.(2)の該当競技者には腰ナンバー標識の配布を行う。
- (4) 代理人による招集は認めない。2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、第1種目の招集時に招集所備え付けの「2種目同時出場届」を競技者係（入場ゲート係員）に提出すること。届け出が完了すれば、第2種目の招集を事前に受けることができる。
- (5) 欠場する場合は、本人または代理人が必ず競技者係に申し出ること。招集完了時刻に遅れた競技者は当該競技を欠場したものとみなす。
- (6) 競技場内への入退場は、すべて競技役員（競技者係・マーシャル等）の指示・誘導によって行う。また、出場する選手以外は競技場内に入らないこと。

5. アスリートビブス

- (1) アスリートビブスは、そのままの大きさで胸と背部に確実に固定すること（跳躍競技については胸または背部どちらかでよい）（TR5.7/5.8/5.9）
- (2) 1000mの競技者は、腰ナンバー標識をパンツ右側の上部やや後ろにつけること。このカードは競技者係（入場ゲート）で受け取り、フィニッシュ後は返却する必要はない。カードを受け取っただけでは、招集完了とならないので注意すること。

6. 競技方法

(1) トラック競技

- ①レーン順はプログラム記載通りとする。
- ②短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
- ③100mYH、110mJHは、風の状況によりバックストレートで実施する場合がある。競技開始30分前までには走路を決定し、アナウンスにて連絡、周知する。

(2) フィールド競技

- ①試技順はプログラム記載通りとする。
- ②フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- ③助走路が使われるフィールド競技では、助走路の外側に主催者が準備したマーカーを2個まで置くことができる。
- ④サークルから行う投てき競技では、サークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを1個だけ置くことができる。これらのその撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。
- ⑤ウォーミングアップ場での投てき練習は、砲丸投に限り概ね競技開始2時間前より行うことができる。ジャベリックスロー・円盤投・ハンマー投の投てき練習は運動広場で行う。
- ⑥三段跳の踏切版の位置については、当日の天候と出場者の状況を考慮し、大会総務と跳躍審判長で協議の上決定する。

(3) 抗議と上訴

競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、正式結果が発表されてから30分以内に、その種目に出場した競技者自身または代理人がT I Cまで申し出る。その抗議に対する審判長の裁定に納得ができない場合は、ジュリーに上訴することができる。（TR8）

その手続きは、「上訴申立書」を記入し預託金（1万円）を添え、T I Cまで申し出ること。

(4) 助力

- ①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出なければならない。（コーチング、トイレ等）
- ②ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーやスマートフォンもしくは類似

の機器を競技場内に持ち込むことはできない。

- ③コーチ等からの助言は競技場区域外（スタンド）のみとし、コーチングエリアは設けない。その際、スタンドで撮影した機器を、提供する者のすぐ近くの位置で競技者が手に取って操作することは助力にはならないが、映像確認後にコーチ等に再生機器等を返さず、競技場所等へ持ち込む場合は助力とみなす。

7. その他

- (1) 競技で使用する用器具はすべて主催者が準備したものを使用しなければならない。ただし、円盤投用円盤は、個人所有のものを使用できる。円盤の持ち込み希望者は、招集完了時刻の 1 時間前までに T I C に持参し検査を受けること。検査に合格した用具は一括借り上げとし、参加競技者で共有できるものとする。なお、競技終了後に T I C で返却する。(TR32.2[国内])
- (2) スパイクピンの長さは9mm以内とし、ジャベリックスローは12mm以内とする。
競技場に商品名のついた衣類、バッグを持ちこむ場合は日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規程」に順守すること。
- (3) 集団での応援は、芝生スタンドの競技運営に支障のない場所で行う。
- (4) スタンドからの撮影は、その選手の関係者のみ許可し、それ以外の撮影は認めない。望遠レンズ付きカメラでの撮影を認めない。また、撮影禁止エリア（ホームストレートスタート後方及びゴール前方）での撮影は一切できない。
- (5) ウォームアップ場（補助競技場）への監督・コーチの入場は認める。ただし、雨天走路への入場は、混雑が予想されるので、認めない。
- (6) 競技場所からの退場は、第1ゲート（フィニッシュライン）後方のみとする。競技終了後、競技役員から指定された動線を通り退場すること。
- (7) 救護室は競技中の負傷・疾病に対しての応急処置を行うものとする。
- (8) 地震、台風、雷、荒天や猛暑＜暑さ指数(WBGT)が31度以上の場合＞は、大会を一時中断・延期・または中止することがある。また競技順を入れ替える場合もある。